

## 小学校 第2学年 国語科学習指導案

日時 平成26年 月 日 ( ) 第 校時

〇〇 : 〇〇 ~ 〇〇 : 〇〇

対象 第2学年〇組 〇〇名

学校名 〇〇小学校

授業者 職・氏名

会場 〇階 〇(組) 教室

### 1 単元名 「知らせたいことを話そう」

教材(名) : 「～おてつだいをしているよ～」(学校図書 2年上)

教科書 : 学校図書 2年上

### 2 単元の目標

家庭での手伝いの内容・様子について、相手に伝わるように順序よく話したり、大事なことを落とさずに聞いたりすることができる。

### 3 単元の評価規準(話すこと・聞くこと)

ア 国語への関心・意欲・態度	イ 話す・聞く能力	ウ 言語についての知識・理解・技能
①身近なことなどについて、事柄の順序を考えながら話したり、大事なことを落とさずに聞いたりしようとしている。 ②家庭での手伝いの内容や様子が、よく分かるように話そうとしたり、聞こうとしたりしている。	①話題に合わせて、必要な事柄を思い出している。 ②相手に応じて、話す事柄を順序立てたり、姿勢や口形、話す速さに注意したりして、はっきりした発音で話している。 ③大事なことを落とさないようにしながら、興味をもって聞いている。	①言葉には、事物の内容や順序を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付いて話したり聞いたりしている。

## 4 指導観

### (1) 単元観

本単元では、「家庭で取り組んでいる手伝いの様子について、順序に気を付け、感想を交えてスピーチする」という言語活動を位置付けた。児童が取り組むスピーチの原稿には、手伝いの手順についてまとめること、丁寧語を使用すること、体の諸感覚で感じたことを書くように指導する。このことで「相手に応じて、話す事柄を順序立て、丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて話すこと」を確実に実現できるようにしている。

単元に関しては、以下の4つの段階で構成した。まず単元の導入で、教師が模範演技としてスピーチを行い、学習する内容についてイメージをもたせるとともに、児童が「手伝いについて話したい」、「手伝いの話を聞いてみたい。」という気持ちが高められるようにする。次に発表原稿作りに取り組む際に、順序を表す言葉（「はじめに」「次に」「最後に」等）を使用したり、体の諸感覚で感じ取ったことも書き加えたりすることを指導することで、経験した事実を適切に伝えられるようにする。続いて、グループ内で発表練習を行い、声の大きさや話す速さについて互いにアドバイスをさせ、発表に向けて自信をもたせる。そして、最後に発表会を行い、発表会終了後には学習の振り返りを行うことを通して、達成感をもたせるとともに、今後の学習に生かしたいポイントを押さえる。

### (2) 児童観

略

### (3) 教材観

本単元は第2学年で最初の「話すこと・聞くこと」の学習になる。本単元の学習を通して、自分が行っている手伝いについて、必要なことを落とさずに話すこと、相手がよく分かるように順序よく話すことには、事前の準備や身に付けるべき力があることを十分に理解させることが大切である。そこで、事前の準備や身に付けるべき力を明確にするために、本単元の学習では主にワークシートを活用して進めていく。

まず、ワークシートを挟むファイルには学習計画を示し、児童が発表会までの学習内容について見通しをもって取り組めるようにする。次に、スピーチ原稿を書くワークシートには順序を表す言葉を書く欄と体の諸感覚で感じたことを書く欄を区別し、児童が学習のねらいに応じて原稿を書くように指導する。本時の児童同士の交流の場面では、付箋を活用する。よかったところを青色、改善すべきところを赤色とする。色分けすることで、アドバイスを受けた児童が、発表会に向けた個々の課題を視覚的に捉えられるようにする。最後に、発表会の場では、感想を伝える相手の組合せを事前に決めておき、児童に過度な負担がなく、主体的に発表を聞けるようにする。

以上の学習活動を通して、児童に自分の思いや考えを伝え合うことの喜びや達成感を得させる。そして学び得たことを、今後の日直のスピーチや様々な学習場面で活用できるように指導する。

## 5 年間指導計画における位置付け（話すこと・聞くこと）

指導 時期	単元名 教材名	身に付けさせたい力
5月	単元名：知らせたいことを話そう 教材名：おてつだいをしているよ	・知らせたいことが相手によく伝わるように、大事なことを落とさず、順序よく話すことができる。
10月	単元名：話し合って考えをまとめよう 教材名：やっぴごらんおもしろいよ	・話題からそれないようにして話し合うことができる。 ・相手に分かるように順序よく話すことができる。 ・大事なことを落とさずに聞いたり質疑応答をしたりして、話し合うことができる。
1月	単元名：考えたものをしょうかいしよう 教材名：こんなものがほしいなあ	・自分が考えたものについて、事柄の順序を考えながら聞き手に分かるように伝えることができる。 ・大事なことを落とさないように聞き、質問や意見を言うことができる。

## 6 単元の指導計画と評価計画（9時間扱い）

	ねらい	学習内容・学習活動	評価規準・評価方法（ ）
第1時	学習計画を立て、見通しをもって学習に取り組む意欲をもつことができる。	・担任の模範発表を見て、スピーチのイメージをもつ。 ・学習計画のめあてを確認し学習の見通しをもつ。	・経験したことから話題を決めている。 イー①（ワークシート①）
第2時	家庭での手伝いの様子を思い出し、紹介したい内容について決定することができる。	・ワークシートに家庭での手伝いの様子についてメモする。 ・スピーチで紹介する手伝いの内容を決定する。	・話題に合わせて必要な事柄を思い出している。イー①（ワークシート①）
第3時	接続語を用いておてつだいの内容を順序よく説明することができる。	・順序を表す接続語について理解する。 ・順序を表す接続語を用いて、手伝いの様子をワークシートにまとめる。	・話す事柄を順序立てている。 イー②（ワークシート②） ・言葉には、事柄の順序を表す働きがあることについて理解している。 ウー①（ワークシート②）
第4時	体の諸感覚で感じたことを書き入れて、手伝いの様子を詳しく説明することができる。	・モデル原稿を基に、体の諸器官で感じたことの表現の仕方について理解する。 ・原稿に体の諸器官で感じたことを付け加える。	・話題に合わせて必要な事柄を思い出している。イー②（ワークシート②）
第5時	発表原稿を推敲し、スピーチのめあてをもとに発表練習に取り組むことができる。	・丁寧語のよさについて理解する。 ・姿勢や口形、声の大きさや速さなどに注意して、個人練習やペア練習に取り組む。	・丁寧な言葉と話し言葉との違いに気を付けて話している。イー②（発表） ・敬体で書かれた文章や敬体を用いた話し方に慣れている。ウー②（発表）
第6時 （本時）	互いにアドバイスをすることで、お互いの発表をよりよいものにする。	・グループ内で発表練習に取り組む。 ・互いに発表を聞いて、アドバイスをする。	・事柄の順序を考えながら話したり、大事なことを落とさないように聞いたりしようとしている。 アー①（発表・ワークシート③）

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・アドバイスをもとに、発表をよりよいものに行っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・姿勢や口形、話す速さなどに注意して、はっきりした発音で話している。イー②（発表）</li> </ul>
第7・8時	話し手・聞き手がそれぞれのめあてをもって、発表会を行うことができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話し手、聞き手のめあてに応じて発表練習に取り組む。</li> <li>・発表後、自己の発表の仕方についての反省を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「話したい」「聞きたい」という願いをもって、進んで話したり聞いたりしようとしている。アー②（発表）</li> <li>・姿勢や口形、話す速さなどに注意して、はっきりした発音で話している。イー②（発表・ワークシート④）</li> <li>・大事なことを落とさないようにしながら、興味をもって聞いている。イー③（発表）</li> </ul>
第9時	学習内容を振り返り、普段の生活で生かすポイントをまとめることができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習を通して身に付いたことや今後の課題点についてまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・言葉には、事柄の順序を表す働きがあることについて理解している。ウー①（ノート）</li> </ul>

## 7 指導に当たって

日々の学習の中で、全ての児童が主体的に学ぶためには、主体的に学べる環境を用意する必要があると考え、本時では以下の3点について工夫を行う。

- (1) 単元計画における本時の役割をしっかりと把握させる。

本時のねらいを確認させ、本時の学習活動が次時の発表で自信をもって行うための下準備の時間であることを理解させる。

- (2) 模範演技を行ったり、観点シートを机上に置いたりして、学習のねらいを常に意識させる。

本時では4人ずつ九つのグループに分かれて学習活動に取り組む。各グループがねらいに応じた学習活動が展開できるように、模範演技を通して学習活動時の留意点を把握させる。また、互いにねらいに応じたアドバイスができるように、机上に観点シートを設置させ、常に聞き手の留意点を意識できるようにする。

- (3) グループ練習の前半終了時に形成的評価を行う。

前半の二人目までがグループ学習に取り組んでいる間に机間指導を行い、発表を苦手としている児童に個別指導を行ったり、望ましいアドバイスの具体例等を押さえたりする。そして、後半開始時に学級全体で共有したいポイントを確認し、後半に向けて児童が意欲を高めて学習活動に臨めるようにする。

8 本時（全9時間中の第6時間目）

（1）本時の目標

◎互いにアドバイスをし合い、発表をよりよいものにすることができる。

（2）本時の展開

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価規準（評価方法）
導入① 3分	<p>○本時のめあてと学習の流れを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>ともだちの はっぴょうのしかたについて アドバイスをしよう</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p><b>学習の流れ</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 スピーチの発表</li> <li>2 アドバイスカードを書く</li> <li>3 アドバイスカードを渡す</li> </ol> </div>	<p>○「学習の流れ」についてはイラストで掲示し、児童が視覚的に学習のイメージをもてるようにする。</p>	
導入② 7分	<p>○見本として、1グループが発表練習に取り組む。</p> <p>○グループ学習の仕方を理解する。</p>	<p>○話し手、聞き手が気を付ける五つの観点（順序・姿勢・口形・話す速さ・はっきりとした声）について押さえる。</p> <p>○模範役グループを指名し、演習を通して付箋の扱い方について確認する。</p>	
展開① 25分	<p>○グループごとに発表練習に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・よい点・・・青色付せん</li> <li>・改善点・・・赤色付せん</li> <li>・アドバイス・黄色付せん</li> </ul>	<p>○4人のグループを九つつくって行わせる。</p> <p>○一人あたりの発表練習を5分毎に区切る。</p> <p>○前半の二人が終了した段階で振り返りを行い、後半の練習への意欲を高める。</p>	<p>・事柄の順序を考えながら話したり、大事なことを落とさないように聞いたりしようとしている。アー①（発表・ワークシート）</p> <p>・姿勢や口形、話の速さなどに注意して、はっきりした発音で話している。イー②（発表）</p>
展開② 3分	<p>○アドバイスを参考に個人練習に取り組む。</p>	<p>○アドバイスカードのコメントから、一人一人に自分のめあてをもたせる。</p>	
まとめ 7分	<p>○学習の振り返りを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習の感想を書いたり、発表したりする。</li> </ul>	<p>○感想には、もらったアドバイスを読んで感じたことや、次時への意気込みを書くように指導する。</p> <p>○児童の感想から、本時で学んだことを端的にまとめて全体で共有させる。</p>	

(3) 板書計画

おてっだい を しているよ

◎ともだちの はっぴょうの  
しかたについて アドバイスをしよう

○グループ学しゅうのながれ

①

②

③

○つぎのことを いしきして 話したり  
きいたりしよう

○じゅんじょ

○しせい

○話しかた

○話すはやさ

○はつきりした声

○今日のはっけん

(4) 授業観察の視点

- 児童が本時のめあてを意識して、主体的に学習に取り組んでいたか。
- 交流場面での付箋が本時のねらいの達成に向けて有効に活用されていたか。